

令和 6 年度 東京都立東大和南高等学校 学校経営報告

校長 川瀬 徹

はじめに 本年度学校経営における「成果・課題・次年度以降に向けての姿勢（改善策概要）」は以下の通りである。

「教育活動の成果」

- 創立 40 周年記念式典を挙行し、30 周年からの 10 年間の歩みをまとめた記念誌を刊行した。
- 創立 50 周年に向け新しいグランドデザイン策定に着手し、暫定版を創造した（別添資料参照）。
- 40 期生（第 2 学年）において第 1 回台湾修学旅行を実施し、海外学校間交流事業を推進した。
- 海外派遣事業（ダイバシティコース）に生徒代表が参加し、トルコ共和国における研修を校内で共有した（於 1・2 学年合同総合的探究の時間成果発表会）。
- 生徒・保護者はともに授業・部活動・学校行事の満足度 80%以上である。
- 「本校生徒は明るくのびのびしている」と生徒自身・保護者・教職員ともに認めている。

「課題」

- 生徒・保護者と教職員で学校評価に乖離がみられる。
- 「校則の見直し」や三者面談の確実な実施について取り組んだが、生徒や保護者の満足を得られていない。
- 校則等に対するネガティブな印象をもつ生徒や保護者に対し、学校での集団生活に必要なルールやマナーについて考えたり理解したりする機会が不足している。
- 読書活動について教職員の 81%が否定的である。
- 業務の効率化達成について教職員の 60%が否定的である。

「令和 7 年度以降に向けての姿勢（改善策概要）」

- 教職員間の差をなくす組織的体制づくりを行う（教職員間の差をなくす）。
- 保護者との緊密な連携を図る。特に三者面談を全学年で実施する。
- 生活指導の改善を図り、生徒に当事者意識を育成し、自分たちの学校をよくしていくためのルール作りとその遵守に取り組ませる中で、建設的な意見を構築する態度を育成する。
- 図書館の開館時間を確保するため、研修・出張等のため司書不在時も当番職員を配置する。
- 職員室のレイアウト替え工事（令和 7 年度設計・令和 8 年度施工）により働き方改革の推進を図る。

今年度の取組状況と達成状況自己評価

達成状況	A：高い水準を達成		B：目標水準を達成あるいはほぼ達成	
	C：目標水準へ一歩		D：抜本的工夫が必要	

令和 6 年度の取組について

1 学習指導（学びの基盤を固める）

- ① あいさつ指導を重ね、各授業と行事にふさわしいドレスコードと「美しい言葉」を大切にした指導を推進し、周年式典について高く評価された。 【評価】A

- ② **都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム<令和 6 年更新版>**に基づき、Teams の活用など、全ての教員が今後のデジタル化技術を活用した教育の推進に取組み、一人 1 台端末を活用した主体的・対話的で深い学びと実践的問題演習等を計画的に取り入れたが、**教員によりで達成度に大きな差が出た。**【評価】C
- ③ 東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に取り組む。特に「**TOKYO ACTIVE PLAN for students**」(**第 4 次推進計画**)に基づく生徒の体力向上に努める。体力テストの実施により、生徒の体力や運動能力を把握して、体育活動に役立てた。【評価】A
- ④ 学力スタンダードに基づいて、教科指導のマネジメントを定着させ、教員各自が専門性の向上に取組み、授業力向上を達成し、知的好奇心を育む。「授業で勝負」・「教養で勝負」を合言葉に、「考えさせる授業」「知的好奇心を引き出す授業」を実践して、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現と**観点別評価（3 観点）の改善を図ろうとする取り組みを継続中**である。【評価】C
- ⑤ 計画的かつ継続的家庭学習習慣等、自学自習の習慣化充実を図る。この成果をみるため、小テスト、予習・復習チェック、ノート提出、レポート提出等を行った。【評価】B
- ⑥ 学習に対する集中力を養い、大学等受験に対する意識を高める。全学年定期的に生活実態調査を実施した。その**結果を三者面談等で活用することについては担当教員により差が大きかった。**【評価】C
- ⑦ グローバル人材の育成に向けた使える英語力を強化を図った結果、英語資格試験合格者数の増大が見られた。【評価】A

2 進路指導(自ら未来を切り拓く力の育成)

- ① 大学入試改革等への対応を的確に推進し、英語 4 技能試験対策としての GTEC の実施・TGG の活用を継続実施した。実用語検定など全ての英語資格試験受験を推進し可能な支援を行い、宿泊 TGG へも参加した。【評価】A
- ② 進路希望調査を学期に 1 回程度実施して、進路希望や学習時間等の定点観測を行うとともに、模擬試験を計画的に実施して、ファインシステム等の結果分析を通して学力の推移を把握し、指導に活かした。【評価】B
- ③ 1 学年は大学訪問、2 学年は大学模擬授業を実施し、3 学年は出願対策講座を開催するなどしたが、**第一志望をあきらめない意識の育成については依然発展途上**である。【評価】C
- ④ 長期休業日や土曜授業午後等に講習・補習、教養講座を実施した。また有効と認める場合にはオンラインによる講習を実施した。**部活動や行事準備のために希望する講習が受けられないケース**も発生している。【評価】C
- ⑤ 三年間を見通した進路指導全体計画に基づき、進路部が主導し、各学年・教科と連携して、組織的・計画的な進路指導を進めるとともに、**進学実績の持続的改善が可能な進学指導体制を構築するまでには、もう一歩であった。**【評価】C
- ⑥ 自習室や自習スペースの確保により、最長で午後 7 時 50 分まで生徒に校内で学習できる場を提供した。また、生徒の自主的学習活動支援に努めるとともに、自習室にサポートティーチャー等を当初計画より増員して配置した。【評価】A
- ⑦ 進路部および学年が、掲示板の活用や進路通信を通して生徒・保護者・教員への時機を捉えた進路情報を発信しようと取り組んだ。ただし、**進路行事には保護者の参加も積極的に促し、啓発と情報共有を図り、進学指導体制を充実するまでには到らなかった。**【評価】C

3 生活指導(生徒目線に立った特別な支援の充実)

- ① 自転車通学については、保険加入とヘルメット着用の徹底に努め、講話や資料配布を通して安全教育の徹底に取り組んだが、**依然としてヘルメット未着用者は相当数いる。**【評価】C
- ② 携帯電話の使用ルールとマナーについては「SNS 東京ルール」に則って全教員共通の認識と保護者の協力を得て生徒に徹底させる取り組みを継続した。【評価】B
- ③ 命と健康・安全を大切にして、自分を活かし他者を尊重して行動できる力を育むために熱中症対策や応急処置等、命の安全と健康に関わる講習を実施した。生徒の自殺予防に向けて、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付けるための教育を推進し、合わせて Teams 等を活用しながら、きめ細やかな指導に取り組んだ。【評価】A
- ④ 下校時刻(通常 17:00、特別居残 18:30)を厳守徹底させることで、生徒のスクール・ライフ・バランスを保護し、生徒が自宅や自習室での学習、読書、趣味、団らんに費やすことができる時間を確保する。【評価】B
- ⑤ 朝の立ち番指導を実施して、穏やかで丁寧な指導を徹底する。「都立高校生活指導指針」による系統的・計画的な指導で社会人としての規律・規範を身に付けさせ、人権に十分配慮して指導・助言を行い、暴言を含め体罰と認識されるような行為は絶対に行わない。**「ルールとマナー」を徹底し、品位ある態度、制服の適切な着用を育もうとしたが、生徒・保護者の理解を得ることができなかった。**【評価】C
- ⑥ スクールカウンセラー(SC)とユースソーシャルワーカー(YSW)の活用や特別支援学校との連携を通して、「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画」に基づく取組の充実を図るとともに、知識やスキルの習得とカウンセリングマインドの定着に取り組んだ。また SC による全員面接や生徒支援委員会の活動を通して、生徒が抱える課題について教職員間での共通認識を図るとともに、必要な合理的配慮等の支援内容の検討と対応を行った。【評価】A
- ⑦ 外部機関と連携しながら主権者教育を行い、社会の一員としての参画意識を育てる。地域清掃等でボランティアマインドの醸成を図る。またオリ・パラレガシー教育活動を継続して行う。【評価】B

4 特別活動・部活動(学習意欲・進路目標達成意識をエンカレッジする)

- ① 「東京グローバル人材育成指針」に基づく国際交流学習・異文化理解学習を推進し、その基盤となる生徒一人一人の英語コミュニケーション能力の向上を図る。特に 40 期生の海外修学旅行(台湾方面)の充実した実施を図り、次年度以降に的確に継承する。【評価】A
- ② 学校行事や部活動を通して、リーダーシップやフォロワーシップを育成して企画・管理能力を育んだ。また、仲間との協働で、責任を重んじる態度の育成やコミュニケーション能力伸長した。【評価】A
- ③ 球技大会を実施し、スポーツに親しむ態度を育んだ結果、クラスの団結を高めた【評価】A
- ④ 合唱コンクールおよび楠翔祭(文化祭・体育祭)等の学校行事は、生徒が知的好奇心と自己表現力を十分に発揮できる機会とできた。【評価】A
- ⑤ 「部活で勝負」を合言葉に、部活動の振興を図る。年間目標、指導方針、指導方法等を HP で公表するとともに、**スポーツ庁及び都のガイドライン**に則って効率的且つ効果的な活動を行った。顧問会議、部長会を開催して、暴言を含む体罰の根絶、いじめやいやがらせの防止、適切な活動メニューの実施を指導するとともに、部活動保護者会を適宜開催して、信頼関係の醸成や情報共有を図る。【評価】B

- ⑥ 教員による部活動の把握を徹底し、銀行口座による部費の適正な管理及び執行を行うとともに、保護者への通知・報告を確実に行う。【評価】B
- ⑦ 文化スポーツ等特別推薦を実施する部活動は、規約に則って上位大会への進出に努めるとともに、その成果と課題を全教員で共有・検証した。また部顧問は所属部員の学力向上に教科担当や学級担任と連携して取り組んだ。【評価】B

5 安全保持と環境美化(質の高い教育を実現するための環境改善)

- ① 関係機関や地域からの協力を得て、防災教育を推進した。【評価】A
- ② 緊急時の対応・連絡体制を整備して、特にアレルギー疾患や怪我等の緊急時等に全教職員で取組むことができる体制を維持した。【評価】B
- ③ 環境美化や緑化を推進し、ゴミ分別や節電・節水励行など、環境問題に配慮した生活習慣を確立も努めた。屋上に太陽光パネルを設置する工事を完了した。【評価】A

6 広報活動の充実(発信先＝本校保護者と生徒・中学生と中学校・進学塾・卒業生)

- ① 「ミナミ (HYM) の魅力をどのように見せるのか」を第一に、学習情報、受検情報、部活動実績、学校行事、進路状況等について、ホームページ更新を図り、スクールガイドで情報を提供した。しかし応募者数は昨年度数には届かなかった。【評価】B
- ② 中学校や学習塾主催学校説明会への参加、塾訪問等について、総務部の管理の下で取り組んだ。
私学との競合は厳しく、今後一層の工夫をする必要がある。【評価】C
- ③ 土曜授業を授業公開とし、夏季休業中に、学校見学会を実施する。また学校説明会を年2回以上実施するとともに、個別相談会を当初計画以上に開催した。【評価】B
- ④ 各部の活動状況に応じて中学生の部活動体験を実施する。特に文化スポーツ等特別推薦を実施している部には積極的に取組ませて、優秀な人材の確保を目指す。

7 組織的な学校運営(「組織目標」^②に基づく学校経営)と働き方改革

- ① 創立40周年記念事業を推進し、記念誌を発行するとともに、学校としての一体感を創出した。ただし、学校評価自由意見において「校則見直し」等への強い不満が出されるなど、生徒・保護者・教職員の相互信頼に基づくチームミナミの強い結束を生み出すにはいたっていない。また、声なき声ともいえる「学校への沈黙の厚い信頼」を見落とさぬよう継続した努力をしているかねばならない。【評価】B
- ② **ライフ・ワーク・バランスの実現**に向けて、学校フォルダ内の掲示板活用、デジタルによる発信、会議のペーパーレス化に取り組んだ。しかし、年次休暇の計画的且つ積極的な取得や、育児・介護支援制度の有効活用を可能にする効率的な組織運営を一層進める必要がある。【評価】B
- ③ 電子起案により校内文書管理を適切に行った。個人情報事故等の発生を未然に防ぐために、施錠保管、机上放置禁止、クリーンデスク等による適切な管理に取り組んだ。ただし、狭隘な職員室に多くの教員が集中しており、**これ以上の合理化推進のためにはレイアウト替えなどの大規模な設計替えが必要である。**【評価】C
- ④ 主幹教諭・主任教諭の役割を明確化してOJTによる教員育成に取り組ませるとともに、若手教員と若手の行政系職員で研修を行った。【評価】B

- ⑤ 生徒の読書習慣確立のために、意図的且つ計画的な図書の購入、図書委員会広報誌等の年3回発行、ビブリオバトルや図書館企画イベントを行ったが成果は小さく、**読書活動の一層の向上**が望まれる。なお**司書不在時の開館体制確立に取組むのは次年度からに延伸**された。【評価】**C**

⑥ 「組織目標」＝年度始めの4月中に校務分掌(教務部・進路部・生徒部・保健部・総務部・1学年・2学年・3学年)及び教科ごとの組織目標を設定する。

8 経営企画室(行政指導発信基地)

- ① 経営企画室長と同室員は学校の一部教育活動全般にわたり行政的視点に立った意見を発信した。今後は一層広範囲へと視野を広げ学校全体を視覚に入れることが期待される。【評価】**B**
- ② 施設・設備の造改修は、真に必要な改修や修繕の優先順位を元にメリハリのある要望を行い、老朽化など**安全上問題のある不具合は、学校経営支援センター経営支援室と連携して早急に改善を図るよう努めた。**【評価】**A**
- ③ 予算執行状況を四半期ごとに確認し、未執行事業の計画変更指示により契約落差金を補正予算の財源として有効活用する。物品の有効活用に向けて事務処理を迅速に進めるよう努め、**予算の有効活用のため、センター執行率を50%以上を目指したが、できなかった。**【評価】**C**
- ④ 就学支援金制度について習熟し、適正かつ迅速な事務処理を行う。担任と連携して授業料未納者への督促を適切に実施するとともに、個人情報の適切な管理のために書類等の授受等管理を確実にを行う努力を重ねた。【評価】**B**
- ⑤ 既存物品の有効活用のために、校内物品の再整理と保管場所の整理等、管理体制を整えようとしたが、倉庫が狭隘でありスペース不足が生じている。また、都のあっせん情報を積極的に収集して、配置換えによる有益な物品の確保に努めた。【評価】**B**
- ⑤ 教職員が協力してごみの分類方法を検討し、資源ごみのリサイクルを推進した。また、電気、ガス、水道の使用量を毎日確認して節制に努めたが、状況を教職員・生徒に周知して省エネ意識を育むまでにはいかなかった。【評価】**C**

Ⅳ 重点目標と数値の達成

達成数値（目標）

- 授業改善と生徒の授業満足度増加 86%（90%）
あなた<生徒>は全体として授業内容・授業方法等に満足していますか？
- 家庭学習時間増加
1 年生<平日> 63 分（70 分） <休日> 83 分（90 分）
2 年生<平日> 114 分（90 分） <休日> 144 分（120 分）
- 長期休業中の講習充実
講習講座数 61 講座（100 講座）
講座参加生徒数・延べ 1509 名（2600 名）
- 資格・検定等合格者数
実用英語検定準 1 級 10 名（10 名）
同 2 級 217 名（170 名）
同 準 2 級 259 名（170 名）
- 進学実績向上
国公立大学<四年制>合格者数 現役・浪人合計 9 名（15 名）
難関私立大学合格者数<早慶上理>現役・浪人合計 11 名（10 名）
私立大学合格者数<GMARCH> 現役・浪人合計 122 名（110 名）
私立大学<成成明学獨國武> 現役・浪人合計 60 名（85 名）
大学入学共通テスト出願者数 209 名（220 名）
- 進路指導満足度向上 73%（80%）
あなたは<生徒>は本校の進路指導で将来の見通しが持っていますか？
- 部活動充実、学校満足度向上 90%（90%）
あなた<生徒>にとって部活動に関わることが学校生活の充実感につながっていますか？
- 特別活動充実、学校満足度充実 93%（90%）過去最高値は 2 年度の 94.6%
あなた<生徒>は本校の学校行事に関わることで学校生活の充実感を得ていますか？
- 年間のべ遅刻回数 3488 回（1200 回）
- 働き方改革（業務効率 up） 年間、勤務時間外労働 360 時間を超える教職員 25 人
職員会議、企画調整会議ペーパーレス化継続 実施 100%（100%）
そのほか新たにペーパーレス化する会議 3 以上 3 以上）
- 学校評価アンケートにおける教職員回答率 100%（100%）